

2021.04.18 聖書の学び
分裂を引き起こす者(新約聖書:テトス3章8~11節)
JDファラグ牧師

おはようございます、第二礼拝へようこそ。日曜日の朝、私たちは二つの礼拝を行っています。第一礼拝は、聖書預言に捧げ、第二礼拝では、一節ごとに神の御言葉を学びます。今日は「テトスへの手紙」で、聖書箇所は3章8から11節までです。私たちは、ほぼこの章の終盤ですが、さらに主が、私たちに何を示してくださるのが楽しみです。可能な方はお立ちくださいますか？ ここにおられる方は、私が読みますのでついてきてください。オンラインの方も、同様に一緒に読んで下さい。「テトスへの手紙3章8節」からです。使徒パウロが聖霊によって、当時クレタ島の教会の牧師だったテトスに宛てて手紙を書いています。

テトスへの手紙3章

「このことばは真実です。私は、あなたがこれらのことを、確信をもって語るように願っています。神を信じるようになった人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらのことは良いことであり、人々に有益です。」—8節—

「一方、愚かな議論、系図、争い、律法についての論争は避けなさい。それらは無益で、むなしいものです。」—9節—

「分派を作る者は、一、二度訓戒した後、除名しなさい。」—10節—

「あなたも知っているとおりに、このような人はゆがんでいて、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。」—11節—

わお～、お祈りしましょう。主よ、今日、私たちの目の前のあなたの御言葉は、私たちの理解の目を開くために、聖霊の助けが必要です。私たちはここにいる理由は、間違いなく、あなたが私たちに示されたいことがあると知っているからです。あなたが私たちに語りたい何かがあれば、主よ、私たちはそれを得るため聖霊を必要としています。ですから主よ、私たちの注意を捕まえ、保ってください。私がすることではなく、聖霊がなさることです。主よ、あなたがそうなさるように、私たちは大きな期待を持って、私たちの前にあるこの御言葉で、あなたがしてくださることが楽しみです。ですから主よ、お語りください、私たちは祈ります。あなたのしもべたちが聞いています。イエスの御名において、アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。

では、メモには「今日は皆さんに話したいこと」と書いてありますが、実はそうではありません。私はこれについて話したくありません。しかし、話す必要があるのです。聖書を通して神の御言葉を教えない牧師や、教師は、このような箇所を避けてしまうのかもしれませんが、「けんか腰」、「挑戦的」、「大胆不敵で」.....

どんな比喻を使ってもいいのですが、これら箇所は、ある種の厳しいものだからです。しかしこれは、教会の中で不和をまき散らし、分裂を引き起こす者を扱っています。もし皆さんが私に、長年に渡り私が個人的にミニストリーで奮闘した主な問題の一つを聞かれるなら、これがリストの一番上に来ます。それには理由があります。私は、クリスチヤンの生活、そして実際にクリスチヤンの教会の営みにダメージをもたらさせるのを目の当たりにしてきました。教会が荒廃していくのを見てきました。人生が台無しになるのを見てきました。分裂を引き起こす人の手によって、結婚生活が壊されるのを見てきました。パウロが、聖霊によってテトスにこのように書いたのも、ある意味では説明がつくと思います。彼はテモテにも、似たようなことを書いています。「テモテへの手紙第二」を節ごとに勉強したのを覚えておられると思いますが、パウロの「テモテへの手紙」に注目したいと思っています。なぜなら、彼はこの同じ深刻な問題を取り上げており、それは、テトス書のこの記述を理解することに密接に関係するからです。それでは、2章の14節から始めましょう。ここでの類似点に注目してください。彼はテモテに手紙を書いて、こう言っています。

テモテへの手紙第二 2章

14これらのことを人々に思い起こさせなさい。そして、何の益にもならず、聞いている人々を滅ぼすことになる、ことばについての論争などをしないように、神の御前で厳かに命じなさい。

15あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。

16俗悪な無駄話を避けなさい。人々はそれによってますます不敬虔になり、23節で続けています。

23愚かで無知な議論は、避けなさい。

“愚か”と言うのが大好きです。お許し下さい。”あなたがたは愚かだ！”はい、もう言いません。たぶんそれが争いのもとであることを知っているのですから、

24主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍耐し、(もっと分かるように言えば、教えることができる＝”よく教える”、怒りっぽくならない)

25反対する人々を柔和に教え導きなさい。神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。

26悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。

テモテも、テスも同じような問題を抱えていたようです。「テモテへの手紙」と「テスへの手紙」を、親しみを込めて「牧会書簡」と呼ぶのは、このような理由からです。彼らは教会の現実的な問題に対処していましたが、彼らが対処していた教会の主な問題の一つは、争い、対立、分裂でした。しかし、分裂する人々に対する懸念は似たようなものでしたが、パウロのテスへの手紙は、より具体的に厳しいようです。テモテへの警告は、「神が彼らに、悔い改めを与えてくださるよう、彼らのために祈りなさい」と言っています。なぜなら、悪魔が行ったことは、彼らを畏にかけ、利用しているからです。憑りつくのではありません。新生したクリスチャンは、悪魔にとり憑かれることはありません。だからといって、

新生したクリスチャンが悪魔に利用されず、悪魔のための働きをしないわけではありません。エペソでテモテにそういうことが起こっていましたが、テスには同じようには言ってません。テモテに言ったように、テスにも「彼らのために祈り、優しく指導し、悔い改めて正気に戻ることを期待してなさい」

とは言ってません。そうではありません。もっと厳しいものです。「一度警告し、二度目に警告し、三度目は警告しない」というような感じですね。「彼らを教会から追い出しなさい。イエスのみ名の下に。」

ワオ、愛はどこにあるのでしょうか？ そのことについて話をします。キリストの体、つまり信者の中に分裂を引き起こす者に、私たちが聖書的に対処するための4つの方法をこの箇所で見つけました。

1つ目は8節で、それは、「継続的に思い出させること」です。ここで、パウロはテスに、このことを絶えず強調するよう、また、善いことをすることに専念するよう、絶えず彼らに言い聞かせなさいと言っています。言い換えれば、「テスよ。そのことを、言い続けなさい。」なぜならその必要があるからです。たとえ彼らがすでに聞いていたとしても関係なく、言い続けるよう命じられてるのです。なぜかといえば、これについて実際、「聖書預言・アップデート」で、別の文脈で解説しています。しかし、何かを繰り返し聞けば聞くほど、それを繰り返すことで、記憶に留めることができ、何度も教え続けることにより、それを思い出し、そこから学ぶのです。まるでテスがパウロに「もう勘弁してよ」と言っているような、そんな感じです。何度も何度も伝えているのに、パウロはなおも言います。「伝え続けなさい、彼らに思い出させ続けさせなさい」考えてみれば、私たちは忘れてしまうから、思い出さなければならぬのです。私たちは忘れてしまいます。このことを告白するのは恥ずかしいのですが、いつもではなく、時々、主よ、感謝します・

これはアレですね、救われる前のライフスタイルのせいで、本当に脳にダメージを受けてしまってたんですよー、マジで... 前の週に話したことを忘れてます。どうか、そんな目で見ないでください。私はただ覚えていないだけで、思い返して「ああ、そうだった！」と思うことがあります。考えてみれば、なかなかいい説教だったな〜とか。皆さんがお気づきかどうかはわかりませんが、聖書の中には、何度も何度も同じことが繰り返されています。聖餐の食卓、最後の晚餐、過越の祝い、儀式のことを考えます。

そして、イエスは「これをするたびに、わたしを思い出しなさい」と仰いました。なぜ「私を思い出しなさい」と言われるのか、私たちが忘れてしまうからではないですか？ そうなんです。私たちは忙しく人生を歩み、生きているこの世では非常にストレスが多く、自分が救われていることすら忘れてしまいます。いや、考えてみてください。あなたは戦いの真っ只中にいて、日々の仕事の激しさの中で、興奮し打ちのめされます。私はこれを言うのも好きです。"bus up"=打ちのめす。そうすると主が、「もしも〜し？何をしているんだ？」「なぜそんなに動揺しているのだ？なぜそんなに取り乱しているのか？」

「どうしてまだ、テレビに向かって叫んでいるんだ？」「あなたは救われているのですよ！」「もうしばらく、地上にいるような振る舞いですね。」「あなたは、ここが最終目的地であるかのように人生を送っていますが、そうではありません。」「あなたはただ通過してるだけです。この世はあなたの家ではありません。」「あなたは世の中いますが、世のものではありません。私に分かってないと思ってそのように振る舞うのはやめなさい。」皆さんのことをではなく、自分のことを言っています。誤解なきよう私はある方向に目を向けるときに、いつも注意しなければならぬのですが、その時は気づかないのですが、「欲望、プライド、強欲だ！」なんて言うとき、見る人々は「あらやだ、私のこと！」と隠れられます。ですから、私は下を向きます。9節では2つ目の言葉が出てきますが、それは「賢く避ける」ことです。

私が「asutely(賢く)」という言葉を選んで使っているのは、判断と識別の両方が、最も重要だと物語っているからです。その意味を説明します。神から与えられた霊的な識別力を活用することは、私たちすべてに課せられた義務です。相手や状況を見極め、その人は答えを求めているのか、議論を求めているのかを判断することです。それが霊的な識別力です。そしてありがたいことに、聖霊はいつも、私たちにその判断力を与えてくださる用意があります。パウロがテモテに書いているように、神を無視したおしゃべりしている人がいるという状況です。しかし、私たちはそれを別の言葉で知っています。「ゴシップ」、「悪口を言う」、「噂を広める」。大抵はこんな風に始まります。「ねえ、聞いた〜？」「何を？」「え、知らなかったの？」「えっ？ いや、何を？」私たちはとても霊的に表現するのが得意なんです。例えば「誰々のために祈る必要がある。」という風に。「いや、何があったんだ？」「あれ、聞いていないの？」「彼らはどうしているんだい？」「どういうこと？」「ああ、聞いてなかったの？彼らはどうしているの？」「知らない！なぜ自分で聞きにいかないのですか？ あ、もっと良いアイデアがあります。彼らについて「悪口を言う」代わりに、彼らのために祈るというのはどうでしょうか。何人かの方がいて、そのためパウロはテスに、このことを書いているのです。喧嘩が好きながいて、彼らはそれを生きがいにします。アドレナリンが

出ますから。彼らは何かを始めたり、かき回したりするのが大好きです。とても肉的で、とても世俗的なのです。あえて言えば、とても悪魔的で、その理由をこれから見ていきます。3つ目、10節の「具体的に警告する」これを誇張できるかどうかは分かりませんが、この件に関しては辛抱してください。パウロがこれを書いている、具体的な内容に注目してください。つまり、これはかなり具体的な指示であるということです。

”一度目、二度目と警告し、三度目は警告してはならない。”

スリー・ストライクでアウトでなく、むしろ、ツー・ストライクでアウトですね。なぜなら、二度警告した後に再び起こったときには、断固として対処しなければならないからです。それは彼が言っていることです。二回目の警告の後、三回目の警告ではなく、分裂をもたらす人々を拒絶し、そのような人々とは何の関係も持たないようにする。ところで、イエスも同じことを仰っています。「マタイの福音書の18章15～17節」に記されています。同じ原則、同じテンプレートと言ってもいいでしょう。イエスは、誰かがあなたに対して罪を犯した場合、1対1でその人のところに行きなさいと仰っています。それでも解決しない場合は、2人以上の証人を連れて行き、そして、もう一度彼らに警告しなさい。それでも言う事を聞き入れないなら、教会の指導者に相談しなさい。それでも聞かないなら、これは救い主の言葉ですが、彼らを、4月18日の国税庁の職員と同じように扱うのです。(笑)一

それは、イエスの仰ったことですよ(マタイ18:17)

取税人。取税人は軽蔑されていました。それで、イエスはそんな扱いをして、何の関係もないようにしなさい仰っているのですか？ 一そうです。ウォ～。それは厳しいですね。愛のない話ですね。ええ、真実から遠く離れることは、できません。つまり、それは真実の反対です。使徒パウロがコリントの教会に手紙を書いたとき、この肉적인教会には多くの問題がありました。聞いてください。継母とセックスをしている青年がいて、教会の誰もがそれを知っていました。ところで、隣の席の人を見てはいけませんよ。

そして、信じられますか？ 彼らはそれを自慢していたのです。どういうことですか？ 彼らは、こう言っていました。「私たちが、とても愛情深く、寛容なんだ～。」「私たちはあなたを歓迎します。誰も裁いたりしません。」そして、パウロは何をしたのでしょうか？ 彼は、彼らに手紙を書きました。それは辛辣なもので、当然のことです。彼は「それは愛ではない！」と言っています。「それが愛だと思っているのか？ あなた方は、彼を愛しているのではない。」「あなたがたが本当に彼を愛しているなら、彼を教会から追い出し、サタンに引き渡して、彼の肉を滅ぼしなさい！」「それが愛です！」「それが？」「そうです。」

有名な「愛の章」、コリント人への手紙第一、13章を知っていますね？ 私たちはこの箇所を良く引用します。愛は忍耐強く、優しく、アァー、鳥肌ものです。彼がなぜそれを書いたか知っていますか？ コリント人が、愛とは何かを知らなかったから書いたのです。彼らはそれが愛だ思っていたのですが、パウロは「それは愛ではない、これが愛なのだ。」と言っています。その何が興味深いかわかりますか？ コリント人への第二の手紙では、肉の滅びのために、サタンに彼を引き渡したことが功を奏したようです。

なぜなら、青年は悔い改めました。そしてパウロは、再度、コリント人を叱らなければならないからです。皆さんが、カルバリーチャペル・コリントじゃなくてよかったのを感謝します。皆さんは本当に素晴らしい教会員です。私には想像もつかないようなことです。なぜなら、またパウロが彼らを叱らなければならないのは、青年は戻ってきて、回復を望み、悔い改めています！ でもコリント人は「ダメダメ。そんなことなほあり得ない、ここから出て行け！」と言います。そしてパウロは言います、「何をしていますか？ その人を許しなさい。彼は悔い改めたのですから、彼を元に戻しなさい。彼を回復させ、彼を愛しなさい。それが愛です。」それは彼らに対する愛だけでなく、教会に対する愛でもあるのです。よく聞いて下さい。もしそれを、「あ～、私たちは愛があるのだ、私たちは受け入れている」という大義の下放置していれば、あなたはサタンに、好きなだけ破壊の額を書き込める署名入りの白紙小切手を与えてしまうことになります。あなたは今、彼に許可を与えたことになります。サタンは、外から教会を破壊することはできないのを理解しなければなりません。彼はそれを、内部から行うことができ、そうするのです。

そして、11節にある4つ目のものに繋がります。「直ちに取り除く」です。この11節では、パウロがこの質問に答えているように見えますが、おそらくテスは、自分自身を疑っていたのかもしれませんが。

テスとテモテの間には、気質や性格が似ているところがたくさんあったのかもしれませんがしかしパウロは、そういう人は基本的にすでに運命を決めているという確信で、彼を安心させています。彼らの心はすでに決まっています。彼らの運命はすでに封印されて、彼らの心はすでに固まっているのです。彼らの心は歪んでいて、彼らは、自分で悪いと分かっています。私たちも以前、本当に難しい決断をしなければならない時がありました。もちろん、敵はそこにいて、「ああ、それは愛のないことだ～。」と言います。

話すのがためられるような出来事がありました。それは何年も前のことですが、他者を食物にする者がいました。私たちは彼を歓迎し、愛しました。気づかぬうちに天使を迎え入れることになるかもしれませんがからね。突然、彼が女性に話しかけ始めたので、私たちは彼に警告しました。私たちは、テス書とマタイ伝に書かれている聖書的なアプローチをとり、2回警告をしました。繰り返しになりますが、

この話をするのはためられますが、再度問題を起さず彼を、直ちにこの敷地から追い出すように、私はス

タッフたちに指示しました。もし彼が拒否すれば、強制的に追い出すようにと、明確に指示しました。これは、コロナ以前の話で、当時は食べ物を持ち寄っていました。キッチンから出てきて、歩いているうちに行列ができてしまっていて…。新しい人の中には「そうだったんですか？」と見ておられますね。すみません。とにかく、ここまで行列ができていました。私は歩いて、人々に挨拶して、お会いして、ハグしたかったのです。そして、その列の中に誰を見つけたかと思いませんか？ 彼です！オーケイ！私は、パレスチナ人となりました。(笑)ー

当時、アーティルがそこにいました。アーティル、覚えていますか？ 私が叫びましたね。「あいつを追い出せ！」と。みんなが列になって「誰？、俺？？ いや、彼だ！」それで、アーティルがその男を敷地の外に連れ出したのです。そしてその後、これは、第二礼拝の後の話だと思っていたのですが…。今お話ししていますが、私のメモにはありません。多分聖霊が、このことを皆さんと共有することを望んでいると思います。その後、私はすべてを調べ始めました。たぶん、私はもっとうまく対処できたと思います。

お気の毒に、来訪者いて「わお～、JD牧師、すげえ…。」しかし、それは…これは主のおかげです。人々が私のところに来て、そのことに感謝してくれました。なぜだかわかりますか？「私たちを愛し、私たちを猛烈な勢いで守ってくれているのが分かりました。それが羊飼いであり、牧師です。」(拍手)

私に拍手しないでくださいね。主を讃えましょう。それはパウロがテスに言っていることです。

「自分を疑ってはいけない。」「神の群れを守らなければなりません。」「私はあなたに神の群れの監督権を与えた。それは、あなたにかかっているのです。」「狼や、他人を食い物にする者など、この教会に脅威や危害を加える人物がいたら？ ああ、あなたはまだ、パレスチナ人を見たことがないのか！？(笑)ー

私もたぶん、もっと違う言い方ができたと思いますよ。本心ですよ、主は私の心を知っています。私は皆さんをとて愛しています。神の御前で、そして皆さんの前で、私の揺るぎない決意があります。この扉を開けて入ってくる誰からでも皆さんを守るために。神に誓います。もし彼らが、この教会の脅威になっているとしたら？ 私たちには方法があります。私たちには人々がいます。私たちはその人々を知っています。(中東発音)アーティルが私を見てます。「もうやめてください。」という感じでね。もしよろしければ、残りの時間を使って、なぜ、このことがそんなに深刻な問題なのかをお話したいと思います。

なぜ神は、このことを非常に深刻に受け止めておられるのでしょうか。なぜ、パウロはこのことを、テスとテモテに書いているのでしょうか。この問題は与える影響が大きく、深刻な問題なのです。深刻なのは、何よりもまず、サタンが入り込んで、外からはできないことを、内からやってしまうということだと言わせて頂きます。もう一歩踏み込んで言えば、敵の最も効果的な武器と戦略、策略の一つは、クリスチャン同士を戦わせることだと思います。もし彼が、クリスチャン同士を戦わせることができれば、救われた人同士の議論に忙しく、救われていない人々に手を差し伸べることができなくなります。サタンはその教会の力を奪い、教会を無力化できるのです。今の世で、教会が腑抜けになっている理由は、一目瞭然です。私には、パウロがテモテに、「悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。」と言っているのは、このような理由からだと思えます。私たちはいつも「神の御心は何か」という話をしていますよね。悪魔にも心(意志)があることを知っていますか？ 私たちは、神の御心を行うことができますが、悪魔の心を行う傾向もあります。悪魔の意思とは？

お～ 盗み、殺し、滅ぼすことです。混乱の父として、兄弟の告発者として、偽りの父として。彼はあなたの勇気を憎んでいます。しかし、イエスはあなたの勇気を愛しておられます。私たちの内におられる方は、この世にいる者よりも偉大です。私たちは彼を、人殺しから逃れさせた。文字通りあなたがキリストにある兄弟・姉妹を憎むとき、あなたは心の中で、彼らを殺しているのです。そして、サタンはそのことを知っています。ところで、ネタバレになりますが、サタンは私たちよりもずっとよく聖書を知っています。あえて言えば、ある面では、あなたが自分自身を知っていることよりも、サタンはあなたのことを知っています。サタンはあなたを研究していることをご存じですよ？ 使徒パウロがエペソの教会宛に書いた手紙には、このような非常に異様で、生々しいイメージが描かれています。まるで、敵は吼える獅子のようだと。獅子が何をするかご存じですか？ 獲物につきまとい、獲物を研究します。また、新約聖書のエペソ人への手紙6章を原語で見ると、軍の戦略家という意味が込められています。私の頭の中では、第二次世界大戦の古い写真のように、全員がテーブルを囲んで地図を見ながら戦略を練っているイメージがあります。私のイメージは、敵であり、その悪霊のすべてが、このテーブルの上で、私の人生の地図を研究し、戦略を練っているのです。彼らは待ち構えているのです。とても忍耐強く。彼らは私が弱っているときを知っていて、私が落胆し、疲れ、疲労し、落ち込んでいる時を知っています。そして、その時を待ち構えています。彼らはまた、あなたや私、私たちが孤立するのを待っています。なぜなら、皆で集まっている時は、なんだか守られているような気がしますよね。武具についても、とても興味深いです。

私はずっと気になっていて、若い信者の頃はこのことをよく理解していませんでした。パウロがこう言っています。

「これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことが出来ます。」(エペソ6:16)

最初に読んだときは、パウロが言っているのは、まるで武具のすべての部分を比較すると、信仰の盾は "すべてに勝る "ということになる、ということになります。それはパウロが言っていることではありません。彼らもそれを理

解していたはずで。当時、兵士は盾を持っていましたが、因みにその盾は水に浸かっていた。これは神の御言葉の描写、型です。彼らは何よりもそれを高く上げ、隣の兵士とぴったりと繋ぎ合わせて、戦いの武器を防ぐために、入り込めない要塞を作るのです。当時は、この矢に火をつけて射出していました。そうすると、矢は入り込めない要塞の盾にぶつかり、火が消え、消滅し、矢は地面に落ちます。では、聞いてください。あるクリスチャンがいて、彼はある意味、一緒に集まる事を放棄してしまい、今ではカモにされています。サタンは「行け！」という感じです。

「我々は彼を捕まえるぞ。隙間なく繋ぎ合わされた要塞がないからだ。」クリスチャンが一人になると、サタンは彼を捕らえます。捕まえます。彼は私達を研究し、追跡し、戦略を練り、最適なタイミングを待っているのです。先週、こんなことを考えていました。イエスが40日40晩、断食されたとき、悪魔がイエスを誘惑したという記述があり、本当にゾッとしました。そのことは一度しか書かれていません。悪魔がイエスを誘惑したのは、その時だけではないと思います。そうですね？ その記述の中の詳細で、いつも心に残っていることがあります。それはルカの福音書の記述です。

「悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。」ルカの福音書4:13

それは聞きたくないです！ 待って、私は悪魔に抵抗したばかりで、彼は弱っています。そして、彼は戻ってくるのですか？ 一ええ、そうです。さて、考えてみてください。そのことがあった後、あなたは油断しませんか？ ふ〜、はあはあ 危なかった。悪魔は、「オッケイ！」という感じです。すみません、これが私の考え方で、前もって、アーティに聞いておくべきだったかもしれません。しかし、車を運転しているときに、「スピードトラップ(スピード違反摘発装置)」と呼ばれるものがある、そのライトを見たとき、どんな反応をしますか？ つまり、スピードが出ているということです。制限速度で走っていれば、そんな反応はしないはずで。そうですね？ いいでしょう。正直になりましょう。私たちは教会にいます。その角を曲がると、ライトが光っているのが見えますね？ 一驚き、焦りの表情—(笑)

そうですね？！ そして、すでに警察が誰かを停めているのを見て、急に安心する。そうでしょう？

—(笑)— そうですね？ 私だけでしょうか？ それとも、車で通り過ぎるときに彼らを見て、「ああ、私じゃなくて良かった」という感じでしょうか？ そして彼らを追い越すと「わあ、危なかった」と思うのです。そしてスピードを上げていくと、そこにはもう一人(警察が)いて...、捕まってしまう。

警察をサタンに例えています、要点は分かっていると思います。あくまでも例えですよ？ 油断は禁物です。あなたは「ああ、危なかった。」と思います。敵は「彼がそうなるだろうと思っていた。」

私は彼の人生の地図を研究しているからだ。」彼は『ああ、危なかった』と思っています。「今だ、彼を捕まえろ！ なぜなら、今彼はそれを予期していないからだ。」彼はそれを予期していない。それが悪魔の意志です。密かにレーダーを潜り抜けて、作戦を開始します。彼の密かな囁き作戦で、彼は...

ところで、これについて理解していただきたいと思います。彼は中に入ってきて、分裂させて征服したいのです。教会だけではなく、人生のあらゆる場面での話です。ソーシャルメディアチームとこの件について話していましたが、どうすればいいのかを考えていました。ソーシャルメディアや新ウェブサイト、

フォーラムに参加している人たちがいますが、彼らは、つまり、この人達は荒らす者です。彼らは下品で汚いものを投稿し、争いを求めています。私は彼らに、特にフォーラムで、テストとマタイを使って

2つだけ警告するように言いました。そして彼らをブロックし、削除するように。私が説明した方法は以下の通りです。それは、皆さんを脅かしたり傷つけたりするような人を、この教会に入れさせないのと同じです。誰かを招き入れて、問題を起こすようなことはさせません。私はあなたに対処します。私は、誰かが私たちのFacebookページやYouTubeチャンネル、その他のソーシャルメディアプラットフォームに入り込んで、分裂を引き起こすようなことをさせるつもりはありませんし、ウェブサイト上のフォーラムも同様です。彼らを追い出します。私は守らなければなりません。そして教会でも、家族でも、結婚でも同じことが言えます。あなたが理解したとき、使徒パウロの「悪魔の策略に無知であってはならない。」(第二コリント2:11参照)という言葉思い出します。

私は欽定訳のこの言葉が大好きです。サタンの計画を、そんなに甘く見ないでください。無知であってはなりません。彼は戦略を練っているのです。彼はすべての戦術と戦略を持っていて、文字通りあなたを破壊しようとしているのです。彼は教会を破壊しようとしています。彼はあなたの結婚を破壊しようとしています。なぜなら結婚は、私たちの未来の花婿、イエス・キリストとの結婚の縮図であり、型であるからです。そして、家族。敵が家族を嫌うのは、家族が象徴するものの故です。それは天の御父の縮図です。

私たちはキリストにおける兄弟姉妹です。私たちはキリストの花嫁です。それは家族です。縮図であり、彼はそれを憎んでいます。私たちは教会の家族です。私たちは教会のオハナ(家族)なのです。彼はそれが何を表しているのかが故に憎んでいるのです。パウロはガラテヤの5章14~15節で、挑発的に語っています。彼は14節でこう語っています。

ガラテヤ人への手紙5章

14律法全体は、『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』という一つのことで全うされるのです。

そして、彼はこう言います。

15気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。

サタンがガラテヤ5章14節から15節を知っていると思いませんか？ ...ああ、ほらね...

ローマ人への手紙第16章、17節と18節。パウロは彼らに懇願しているのです。

ローマ人への手紙第16章

17兄弟たち、私はあなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに背いて、分裂とつまずきをもたらす者たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。

18そのような者たちは、私たちの主キリストではなく、自分の欲望に仕えているのです。彼らは、滑らかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。

そして、ここでクリスチャンのことを考えてみると、無邪気な純真さがあります。私たちはとても信じて疑いません。私たちは、そのようにしていると、大きな過ちを犯すことになります。なぜなら、私たちは鳩のように素直でありながら、蛇のように賢くある必要があるからです。(マタイ10:16 参照)

蛇のように賢く。そこには、霊的な見極めが必要でなのです。そして、神が駆けつけて、あなたに識別力を与えられないとは一瞬たりとも想像しないでください。なぜなら、彼はあなたを守りたいのです。

時には、このようになることもあります。決してこれに逆らわないでください。ただ、霊的に不安や抑制があるでしょう。「何か違和感がある。よくわからない。なんか変だな。」それは聖霊です。「このように言われて、声をかけられた時には、とても居心地悪い思いをして...」いいですね。それは良いことです。

油断しないでください。気をつけてください。私が思うのは「使徒の働き」の中でパウロが、皆さんが使徒パウロにどのようなイメージを持っているかは分かりませんが、私はこの力強い神の男は、よく泣いていたと思います。彼は男らしく泣きました。彼は、自分が去った後に起こることを話しています。別れの言葉、お別れのメッセージの中で、彼はこう言っています。

「私はこの先何が起こるか分かっています。そのことを考えると耐えられません。」「実際に3年間、昼も夜もこのことで泣いていました。」「何のために泣いたのですか？

「あなた方の中から、羊の皮をかぶった狼が出て来て彼らは群れを荒らすでしょう。」「(使徒の働き20:29~31 参照)

「私は何が起こるのか知っています。」「そしてパウロは、この先、彼らに起こるであろうことを警告するために、できる限りのことをしているのです。「起こるのだろうか？」ではありません。「必ず起こるのです。」「問題は、「それを見極めて対処できるように、それが起こった時に気づくことができるか？」です。

箴言6章、私は最高でないものを最後にとっておきました。実は、一番悪いのは最後の16節から19節なんです。が、よろしいですか？ この箇所を読む前に前置きをしておきます。教会を守ること、教会を愛することにとどまりません。これは、非常に深刻なことです。なぜなら、主の御目には忌まわしいことなのです。「まあ、かなり強いんですね、牧師さん。」そうでなければならぬのです。前置きが長くなりましたが、もう一度よく考えてみましょう。神は、天国で何が起こりうるかを身をもって知っておられます。

そう、ルシファー、分裂、不和。

「私は最も高い者の上に、私の王座を上げよう。」「(イザヤ14:13 参照)

最初の教会の分裂は、いわば天での出来事でした。努力はしてきましたが、感謝なことに、この苦い杯を味わうことはありませんでした。多くの方が経験されていると思いますが、自分の両親が自分の名誉のために、死ぬまで、死が二人を分かちまで、結婚生活を続けたことを想像してみました。子どもの頃に離婚という杯を味わったことはありません。両親が離婚して別れること。壊滅的であることはわかっています。そして、神が離婚を嫌われる主な理由の一つは、離婚が離婚された人に与える影響が故です。子どもたちの人生を基本的に台無しにしてしまいます。しかし神の恵みがありますが、非常にトラウマになります。想像できます。私がアメリカ本土にいた頃、教会の分裂に関しては、その同じ動きを別の形で味わったことがあります。そして、それは私を引き裂き、ズタズタにしまいました。それに巻き込まれた人たちにもたらした影響の故に。再び前置きが長くなりましたが、これが神が嫌われる理由です。

だからこそ、彼にとっては忌み嫌うものなのです。だからこそ、深刻なのです。生死に関わる重大なことと言ってもいいでしょう。最後にもう一つ、それからこの箇所を読みましょう。一緒に考えてみてください。大人になっても、教会や主と一切関わりたくないと思っている若者がたくさんいることをご存じですか？ これがなぜか分かりますか？ これです。彼らは両親や教会の人々がお互いに貪り食うのを見ているのです。彼らはそれを見ているのに、あなたは彼らが主と関わろうとしないことを責めるのですか？

箴言6章16節

「主の憎むものが六つある。いや、主ご自身が忌み嫌うものが七つある。」—16節—

最後の17節。準備はいいですか？ これを見ながら、あることに気づいてほしいと思います。

「高ぶる目...」いつもそこから始まるのです。プライド/高ぶり。このリストを見ていく中で、プライドを始めに置くと、残りの部分が説明されます。

「高ぶる目、偽りの舌、咎なき者の血を流す手、」—17節—

「邪悪な計画をめぐらす心、悪へと急ぎ走る足...」—18節—

目、口、手、心、足、体との比較に注目してください。

「まやかしを吹聴する偽りの証人、…」

そして、7番目の神に忌み嫌われるものを知っていますか？

「…兄弟の間に争いを引き起こす者。」—19節—

だからこそ、これは非常に深刻なのです。最後に、主が私に伝えさせたいと感じていることで締めくくりたいと思います。特に、このことで(この言葉のある意味慎重に、そして祈りを込めて使います)

被害を受けた人たちのために。受け取る側になったことがある方。あなたはそれを目の当たりしてきました。あなたはこの件でとても傷つきました。私はあなたへ伝えたい言葉があります。それはこの点に関して、非常に辛い経験をしたときに、神が私に与えてくださった言葉です。私は本当に、赦すこと保留し、赦さないままでいました。自分がされたことで、恨みを持っていました。引き起こされた分裂と、台無しにされた人生。それが、私を内側から蝕んでいたのです。そしてついに、神が私を打ち砕いてくださり、人生が変わる真実を伝えてくださり、それがすべてを変えました。「彼らがあなたにしたことではなく、わたしがあなたの為にしたことが大事なのです。」ああ、私は赦されたからこそ、赦すことができました。彼らがあなたにしたことから目を離してください。そうしないなら、それがあなたを殺すのです。つまり、生理学的に、医学的にも身体的にも体に何かが起こるかという研究があります。あなたの消化器系、循環器系、神経系、すべての、そして、神はご存じです。あなたが悪意を心に抱くなら…、だからこそ、ヘブル書の著者はこう語っています。

「苦いものを根付かせ、芽を出させてはならない。苦い根があつてはならない。なぜなら、それはあなたを汚すことになるから。」(ヘブル12:15 参照)

それはあなたの昼食を取って食べちゃうようなものです。それは、非常にゆるい言い換えですが、言いたいことはお分かりだと思います。私がおのことに気づき、納得して受け入れたとき、ええ、オズワルド・チェンバースがかつて言ったように、

「私が不当な扱いを受けたかどうかではない。私が不当に扱ったかどうかだ。」

そういえば、私も悪かったし、あなたも悪かった。私たちは皆、罪を犯しました。しかし神は、私たちを赦してくださいました。

「私たちの負い目をお赦してください。私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します。」

(マタイ6:12)

そういうことです。もし誰かを赦すことに苦労しているなら？ ただ、主があなたを赦してくださったことをすべて語っていただきましょう。そうすれば、簡単にできるようになります。

ちょっとくだらない描写ですが、主がメールで「添付したいファイルがあります。」と仰っているようなものです。

「それは、私があなたを赦したすべての事柄の非常に大きなファイルです。実際には、このファイルのために4テラバイト以上の容量が必要になります。」

主よ、必要ありません。分かりました。それは、あなたが何をされたかではなく、イエスがあなたのためにして下さったことです。それを手放してください。お立ちください。賛美チームは上がってきてください。きっと、今が良いタイミングだと思います。私が言うのもなんですが、皆さんは私がこれを言うのに

飽き飽きしているかもしれません。そうでないことを願っています。この愛に溢れた教会の牧師であることは、とても名誉なことであり、素晴らしい特権です。私たちはこのようなことを全く知らなかったし、今まで、17年間です。私は、ただただ、これについて主を褒め称えています。つまり、あなた方は本物です。イエスは仰いました。

「互いに愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」(ヨハネ福音書13:35)

それが、リトマス試験です。少しずつオープンになってきたので、オンラインのメンバーが増えました。カリフォルニアからの参加者もいました。コロラド州とペンシルバニア州です。つまり、今日とはとにかく素晴らしかったのです。私が大好きなのは、彼らが私にこう言ってくれることです。「あなたの教会はとても愛に溢れていますね。」私は、「ああ～…！」と。私が彼らに何と言っているか分かりますか？

それは、「もし私がこの教会の牧師でなければ、ここが私の通う教会です。」そのことに感謝し、神に感謝し、皆さんを本当に愛しています。皆さんのおかげで、牧会することは喜びです。皆さんのおかげで、牧会が喜びです。そう言える牧師はあまりいません。祈りましょう。

天の父よ、本当にありがとうございます。ああ…終わってよかった！と思いました。申し訳ありません。

これは、繰り返しになりますが、これは重い内容ですが、主よ、とても必要なことです。主よ、私たちがここで共に過ごし、あなたの御言葉の中で見てきたこれらのことを、聖霊によってあなただけがお出来になるように、次のレベルへと引き上げてくださいますように祈ります。主よ、今日ここにいる人、あるいはオンラインで見ている、この話が心に響いた人のために、主よ、あなたがいつも忠実であられるよに、彼らにあなた自身を現し、彼らへのあなたの愛と守りを明らかにして下さることを祈ります。

主よ、あなたが私たちのために死んでくださったほど、私たちを愛してくださっていることに感謝します。

「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

(ヨハネ福音書15:13)

主よ、もし恨みを持ち続け、赦さないままにいる方がおられるなら、今日がその方が自由になり、後ろを振り返ることのない分岐点となることを祈ります。主よ、ありがとうございます。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージby JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7